



春南中だより

春日部市立春日部南中学校 令和4年度 第2号 令和4年5月2日発行

最後の最後まで



学 校 長

青葉が目眩しいこの頃、ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて今月号は、日本の囲碁界をリードする気鋭の若手棋士、一力 遼（いちりき りょう）さんの紹介です。24歳という若さで「令和三羽ガラス」の一人と称される一力さん、若い人たちに向けてのメッセージです。

『僕は勝負の世界にいますが、どんなに強い人だって負けることはあります。そして勝った時より負けた時の方が、得るものは大きいです。その反省点というか、自分の実力に足りないところは、むしろ“伸びしろ”だと思っています。どんな状況も成長のチャンスと捉える。その心意気が、行き詰まりを打開していくと信じます。あと、囲碁の場合では「一線の妙手（みょうしゅ）」という言葉があり、一手で形勢が逆転することがあります。どんなに形勢が悪くなっても諦めずに打つ。離されないようにしていく。最後のチャンスがなくなるまで打つ。その執念が勝利をたぐり寄せます。これは人生万般（ばんばん）にも通じることだと思います。13歳でプロになり、負けをいつまでも引きずったり、棋士生活と学業の両立にも苦しみました。ただ、「負けず嫌い」というのが根底にあると思います。それは今の棋風にも表れています。周りからはよく「戦いに突っ込んでいくタイプ」と言われますが、戦況が苦しくなっても、こちらから攻め込み、勝負を挑んでいくことが多いです。また形勢が良くても、守りに入らず、さらに踏み込んでいくようにしています。棋風の原点は16歳の時です。この一局を勝てばリーグ入りができるという大事な一番でした。ですが、優勢に進めていたのに、途中から手堅い手を打ち続けてしまい、ずるずると後退して、逆転を許してしまった。あの時の悔しさが、今でも残っています。その後も守りに回ったことで、何度も泣かされてきました。だから、どんな局面でも攻めの姿勢を崩さない。負けた時の悔しさが、今の自分の力になっています』

新しい学校、新しい学年、新しい学級、新しい下駄箱、新しい教室など、スタートして早1か月が過ぎようとしています。今月は連休明けから埼玉県学力・学習状況調査があり、保健体育や学活等などの授業では体育祭練習が始まります。さらには、運動部の先陣を切って陸上部の通信陸上競技大会春日部市予選会があり、今月末に最初の全校行事、体育祭が予定されています。

チャンスと捉え、チャレンジの場面を迎えます。

やり抜く心意気は、確実に持ち続けたい。

一線の妙手へ。

